

2014 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2014 JUA/EU Resident Programme 参加報告

内 海 孝 信 (東邦大医療センター佐倉病院)

この度、平成 26 年度 The JUA-EU Resident Programme に派遣される素晴らしい機会を賜りまして、御推薦頂いた鈴木啓悦教授並びに日本泌尿器科学会国際委員会の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、4 月 12 日から 15 日までストックホルムで開催された 29th Annual EAU Congress に参加致しました。ストックホルムは初めて訪れましたが、とにかく遠く自宅を出て会場の Stockholmsmässan まで寄り道せず直行しましたが 20 時間くらいかかりました。何とかたどり着いて会場に入ると、様々な言語が飛び交い熱気のこもった雰囲気圧迫され、各セッションでの濃密な議論は長旅の疲労を忘れさせてくれるものでした。EAU Congress には初めて参加しましたが、欧州の学会ではあるものの世界中から泌尿器科医が集まっており国際交流の最前線であると肌身で感じる事ができました。日常診療において、日本だけではなく米国や欧州のガイドラインも参考にして多角的に考えることが多いです。一つの同じ治療法に関しても、日本と米国、欧州の意見が異なることもあるのは机上では知っていましたが、各治療法の考え方（例えば TUR-Bt 後の BCG 療法一つとっても）に、保険診療の違いがあるにしても欧州と日本には大きな違いがあることに衝撃を受けました。目の前の患者様にとって最良の治療はどれを選ぶべきかと、今回の EAU Congress 参加は改めて考える良い機会になりました。

さて、今年度より始まった JUA-EU Resident Programme では、EAU 参加登録費及び宿泊場所の提供は EAU 側が負担して下さるので若手医師にとっては非常に助かります。また、今回は公共交通機関 (SL 社) の access カードが提供されたので、一度 Congress 会場でカードを受け取ればストックホルム市内は自由に行動ができました。ストックホルムは「北欧のヴェネツィア」



夕食会の写真 (右より、鈴木英孝先生、小幡淳先生、筆者)

と称されるだけあって非常に美しい街並みで、会場までの車窓から見える景色に感嘆しました。また、遠い異国の地で普段はお話できない他施設の先生方と御一緒にできる貴重な機会もたくさんありました。同じくプログラムで派遣された慶応義塾大学病院の小幡淳先生や札幌市立札幌病院の鈴木英孝先生と夕食を御一緒に、色々と自分たちの実情を話せたのは同じくらいの学年ということもあって非常に励みになりました (写真)。他施設の先生方と気軽に話せることは、国内学会では機会がなく海外開催の国際学会に参加する隠れたメリットだと思います。

限られた期間ではございましたが、今回の JUA-EU Resident Programme への参加で体験したことを日常診療に還元できるようにこれからも精進したいと思います。重ね重ね、関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。